

令和3年度 教育目標

1. めざす生徒像

日本大学の教育理念「自主創造」を形づける「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」生徒の育成に努める。

2. 目標

- ①日本大学基礎学力到達度テストに対応した教育活動を実践する。
- ②高大接続改革に対応した教育活動を実践する。
- ③新学習指導要領に対応した観点別評価のルーブリックを作成する。
- ④ICT教育をより発展的に推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ⑤自ら学ぶ心を育成する。
- ⑥探究学習を推進し、生徒の自立心、社会性を養う。
- ⑦教員は研鑽に励み、教育改善のPDCAサイクル等を構築する。
- ⑧学校生活での健康安全に配慮する。
- ⑨コース制度の充実を図る。

3. 内容と活動等

- ①コースの特性と生徒の進路希望を考慮しながら、日本大学基礎学力到達度テストの傾向と対策に基づいて教科活動を行っていく。
- ②高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革を目指す高大接続改革の中で高等学校教育に育成が求められている「学力の3要素」である、①知識・技能の確実な習得、②（①を基にした）思考力、判断力、表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、を意識しながら教科活動を行っていく。
- ③次年度からの新学習要領の実施に向けて、観点別評価のルーブリックを作成する。
- ④ICT教育を推進し、高大接続改革へ対応するため、教育情報機器を活用し、生徒の学習意欲の喚起と学習効果の向上に努める。
- ⑤各科目の「日々の学習」、「学ぶために」、「シラバス」による導入学習による意識付けを始めとして、授業の大切さを理解させる。また、予習・復習・課題へ取り組ませ、家庭学習の定着を促し、課題は期限どおりに提出するように自律的な学習習慣が付くような学習活動を行っていく。
- ⑥探究学習等を通して、SDGsの達成に向けた持続可能な開発のための教育（ESD）を推進する。
- ⑦相互授業参観の継続と各種研究会や予備校等の研修会への参加を促すとともに、教育改善のPDCAサイクルを構築する。
- ⑧生徒の動向について常に注意を払い、不測の事態が起きないように心がける。クラスに問題が生じた場合、クラス教科担当者会を開催し、情報を共通し、共通理解のもとで指導にあたる。
- ⑨コース係会を開催してコースに存在する課題に取り組み、より良いものにしていく。

以上